



あかし

胡屋バプテスト教会 国仲玲子

私が、教会へと導かれたのは、高校二年の頃でした。同じクラブの部員が、すでにクリスマスチャンであり、いろいろ話しているうちにその人間性にひかれ、私も教会につれていってほしいと頼んだことが、初まりでした。

初めて参加した教会の礼拝は、今でも心に残っていて、しめやかでもおちついた雰囲気の中で行なわれていました。初めて手にした週報の左すみに「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのみに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。聖書」と書かれてあるのに心のなごむ思いがし、緊張がとけ、牧師さんの話しをおちついて聞こうと思った瞬間「みよ、わたしは、戸の外に立ってたいている」という御言葉が、私の心の中で響いたのを覚えてます。教会員の方々も心から歓迎してくれました。

その後、毎週日曜日の礼拝に参加するようになり、歌が好きで、良く歌えるということ、すぐに聖歌隊のグループにも加えてもら

って、歌っていました。最初から大きな舞台に立たされ、同じ学生之交わりから、自分の求めている楽しさがあると思ひ、最初の頃はとても楽な教会生活を送っていました。次第に聖書研究のクラスへの参加もするようになり、集会へ参加するだけの満足感とで、有頂点になっていたのです。

そんな中で、渡辺暢雄先生による、伝道集会で実際に恵まれず、どん底の生活を送り何回も死のうと思っていた中で、主イエス様の信仰へと導かれ、新しい命が与えられ、今では生き生きとした生活を送っている「米子さん」の話しを通して、心の目が開かれ、軽い気持ちで賛美していた自分、ちっぽけな誇張心で、満足していた自分をすまないと思ひ、こんな私をも愛してその愛のゆえ主イエスは十字架上で死んでくれたんだという事がひしひしと私の胸に迫り、私にバプテストを受けの決心を与えてくれたました。

クリスマスチャンになってからは、誇張心もいくらかおさまっていき素直に御言葉を受け入れられるようになっていました。それも頭だけでの理解であって、今一つそれを実践する段階に至らず、生活全体が証しの出来る者ではありません

せんでした。信仰の弱っている時聖書を読んでいて、ひっかかる部分も出てきたりしますが、わからない中からでも「神様、どうしてそんなのですか」と求めているれば必ずまたそれが満たされるのも神様の愛、恵みなのだとかかるようになりました。

本日に試練の多いには、驚きを感じ、又、負けてしまいうるようになりますが、そんな時も「主の訓練を軽んじてはならない...主は愛する者を訓練し...」(ヘブル十二の五、六)と、なぐさめの言葉を与えてくださるのです。

御言葉は、私達の力になり、なぐさめになるものだなと思わされるのですが、何よりも、主イエスの十字架の苦しみにくらべれば、私達の苦しみは、取るにたらないものなのだとつくることが、私をなぐさめ、力づけてくれると思ひます。このことを本當の意味で実感し、体得できたと思ひています。このすばらしい福音を、私の出来る限り多くの人に、又、とことんまで説明を求め人に対して、その教えの知恵を持って答えることが出来るようになりたいと思ひています。

同盟国場教会 山入端利美

昨年、大学を卒業し沖繩に帰ってきました。私は、父の精神的な病で、家庭が混乱状態であるのに直面し、私にとって大きな問題としてのしかかっていました。どうかしななければとあせり、色々を試みたのですが父は一層ふさぎ込むばかりで家庭の者も暗くなってゆくばかりでした。腫ものにでもさわるように父と接する母に對し「もっと積極的働かかけて明るく努めなければいけないじゃないの。」等と責めたり、説教したり、投げ所のない毎日を送っていました。時がたつにつれて、そんな事を言ってもどうにもならず、かえって空しくなるばかりでした。と同時に自分のする事に自信を失い、私という者を説明できず、何の為に存在しているのか全くわからなくなり悲観的になっていました。でも、このような状況を通して私の心はだんだんとうち砕れていき、今まで自分たちで生きていたと思っていたのが、何か大きなものに支配され、生かされているのではないかと思ひ始めるようになっていたのです。言動が一致しないのにやっ

るかのようになせ、家族の者愛していると言いながらも実践できず、それを周りにせいにしていたのです。この事があるクリスマスチャンに指摘された私は、自分が大きな罪を犯しているのだという事を心底から思ひ知らされたのです。自分の意志や力で物事を解決しようとした時、私は罪を犯していた事に気づかなかったのです。真理であり道であり命である。万物の創造主、神を認めず、自分勝手に生きた事が、あの平安のない苦しい毎日を送ってしまった結果だったのです。

でも神様はこんな私たちを罪から救う為にひとり子御子イエスを十字架にかけられ、あわれんで下さったのです。人間の知恵では量り知れない程、なんと尊い愛なのではない。本当に感謝の念でいっぱいです。私はこの罪の贖いを心から感謝し、主の御心を第一に歩んでゆく決心を致しました。「あなたがたのからだを神に受け入れられる聖い生きた供え物としてささげなさい。それこそあなたがたの霊的な礼拝です。...むしろ神のみこころは何か、すなわち何が良いことで神に受け入れられ、完全であるのかをわかまえるために心の一新によって自分を

変えなさい。」(ローマ十二の一、二)の御言葉を覚えつつ、主の祝福と導きを待ち、主が望んでおられるような者になりたいと願っております。

でも私は救われてまもない赤子のような者です。主の御心を知る為にも、「良い働きの為にあつたし十分に整えられた者となるため...」にも、御言葉を深く知らなければなりません。この事が私に示された第一にますべき仕事だという事を覚えず。本来ならば自分の教会で学ぶのが理想ですが深く聖書を学ぶには現実的に無理があり、その訓練の場を信徒聖書学校で、できたらと願うのです。

希望が丘教会 伊波清子

私は聖書学校に行くかどうかでぎりぎりまで迷った。それは、聖書の御言葉を学び、自分自身変えられたらという思いと、御言葉を聞いても自分のものとするのが弱いため、来年しようかと考えていたからです。私は他の人の倍努力して、やっとなっているタイプです。それにもかかわらず怠慢のできな日もあり。そのため自分中心の生活になってしまふ。これではいけないと聖書読む。そし



1981年12月6日 クリスマス感謝会

て御言葉にはげまされる、ということの繰り返しです。こんな私に姉妹たちは、「ただおのおの、主からいただいた分に応じ、また神がおのおのをお召しになったときのままの状態を歩むべきです」(1コリント七、17)開かれた門(行こうと思えば行ける状態)の時にチャンスである。でも何が神のみ心かよく考えなさいと助言してくれました。自分自身かえられたという思いは強い。思い煩わず神にゆだねて祈り、これからは神様から力をいただきながら歩みたいと思ひます。

聖書学校の入学を勧め下さった牧師先生。励ましてくれた姉妹たちに心から感謝したい。聖書学校入学によって自分自身の信仰を吟味する機会を与えられて感謝です。

「人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることが出来ますように。神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされまうように。」(エペソ三、14)と祈りつつ。

一九八二年 沖繩信徒聖書学校生徒募集

△募集人員 二〇人

△入学資格 新生の明確な自覚をもち、受洗後一年以上忠実な教会生活を送っている者。

△修養年限 二年(毎週火曜日、金曜日午後七時三〇分〜九時)

△願書/切 三月七日

△入学試験 三月八日午後七時

科目 聖書、一般常識、小論文及び面接

将来信徒伝道者として、キリストと教会に仕えたいと願う者は、ぜひ本校に入学してください。